

であり、E/F比は500～1,200となった。

以上、動物実験と食事調査により得られた結果について報告する。

3. 自動水洗ラックを用いた小動物の大量飼育について

佐藤 芳範 (株林原生物化学研究所)

我々は、いわゆるハムスター法によるヒト細胞の大量増殖技術を確立し、種々の生理活性物質の生産を行っている。IFN- α については、臨床試験が終り、昨年9月には製造承認申請を済ませ、眼下、吉備高原テクノポリスに製薬工場を建設中である。

工場建設に当り検討してきた工程の省力化、省エネ化、自動化のうち、ハムスターの飼育関係に限って報告する。

検討の対象は、飼育室構造を含む空調方式についてである。即ち、水洗ラック、自動給餌機、空調制御方式と、それらの組合せの検討であった。

試験的に導入したベルト式水洗ラックで検討を始め、床敷飼育方式との比較で認められた欠点について改善を試み、水洗ラック方式での大量飼育の可能性を模索した。その中からいくつかについて紹介する。

1. ケージ形状の改良

居住性を考え、又ハムスターの習性から四隅のみ穴があり糞尿処理機能を持つ、ケージの出入れせず給餌の出来る外箱方式である。ケージ内に仕切り板を入れる事により巣づくりを容易にした。

2. ラック形状の改良

単位容積当たりのケージ収容数を増した。使用水量の少ない構造とした。背面排気方式により作業環境を改善し、風量の削減を計った。自動給餌機が設置可能な形状とした。

3. 空調制御方式についても検討し、地下飼育室の導入と併せて、空調動力の省力化について検討した。これらの検討結果は来春稼動予定である吉備製薬工場の施設に取り入れられている。

第13回岡山実験動物研究会報告

昭和62年3月30日(日)午後2時から、岡山大学医学部臨床講堂において永井 廣先生(歯学部)

のお世話で開催された。本会は発生工学懇談会と岡山バイオ懇談会との共催で行なわれた。

この会では、京都賞(先端技術部門)を受賞されたフランスのニコル・M・ルドワラン教授(フランス科学振興機構発生学研究所所長)をお招きして、岡山フォーラム「生物のかたちづくりの謎をとく」一発生工学への道一が催された。

ルドワラン教授の講演に先だって、竹市雅俊教授(京都大・理)から、「細胞をよりわかる分子と動物のかたち作り」の賛助講演が英語でなされた。その講演は動物のかたちを構成する細胞の機能、しくみに関する大変興味深い内容であった。

10分間の休憩後、医学部長小田啄三先生の御挨拶があった。その後直ちに、ルドワラン教授の講演に移った。ニワトリとウズラ間のキメラ動物の作出という新しい技術を用いて、高等動物の発生のメカニズム特に神経系と免疫系の発生機構を解説した内容について詳細に話され、胚の発生機構に興味を持つ聴衆者に大変深い感銘を与えた。

昭和61年度役員会報告

昭和61年度内には、下記の2回の役員会が持たれた。

第1回役員会

昭和61年9月13日(土)13:00～13:50まで、重井医学研究所3階図書室において開催された。

議題ならびに討議内容は下記の通りである。

①昭和60年度会計報告について……昭和60年度(4月20日～12月28日)の会計報告の監査を中江利孝、高橋正侑両監事にお願いしたところ、昭和61年5月8日に御承認を得た。

②研究会員ならびに賛助会員の動向について…昭和61年6月末現在で97名の会員となり、同年9月13日現在で岡山県立短大生物学研究室の伊藤国彦先生、琉球大学医学部附属動物実験施設の小杉忠誠先生の2名が会員になられたので、会員は99名となった。

岡山県内会員は38名(38.4%)、県外会員は61名(61.6%)となり、県内会員は県外会員を下まわ